

## 第6回学校規模適正化・適正配置推進計画策定委員会(会議録)

- 1 日 時 令和7年6月3日(火)、18時30分～19時40分
- 2 開催場所 中妻地区生活応援センター 大集会室
- 3 出席委員 市村かおり委員、山蔭深思委員、小笠原慎二委員、長谷川利香委員、上小路悠子委員、内川留依委員、小笠原英美委員、佐々木猛委員、福成菜穂子委員、檜山知美委員、柴田渥委員、洞口政伸委員、市川淳子委員、常陸奈緒子委員、鈴木崇委員、藤井智哉委員(16人)
- 4 欠席委員 合田育美委員、遠藤一彦委員、佐々木啓二委員(3人)
- 5 事務局 高橋勝教育長、川崎浩二教育部長、笹村聡一総務課長、佐々木薫学校規模適正化推進室課長、岩淵勝也学校教育課長、鈴木隆光学校教育課主幹、川崎克総務課長補佐、前川恵美総務課長補佐、谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐

## 6 経 過

### (1)開会

川崎教育部長が開会を宣言

### (2)教育長あいさつ

#### 【高橋教育長】

本日の会議は、皆さんに配付している釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画の素案について協議をしていただきたい。そして、本日の皆さんからの意見をもとに、「素案」から「案」にしたいと考えている。そして、「案」をもとに、地域や学校のそれぞれの保護者へ説明をしていきたい。そういった意味で本日は非常に重要な会議であると位置付けている。

また、以前皆さんにお配りした素案を教育委員会で若干見直し、理解しやすい表現にした所や、文言を追加したところは朱書きで示しているのので、説明させていただきながら意見を頂きたい。この場で決定ということにはならないかもしれないが、先ほども申したとおり、「素案」から「案」にしていきたいと思うので、この後の協議をよろしく願います。

### (3)説明及び協議

#### 【委員長】

今回で当委員会は6回目を迎えた。前回、第5回委員会では、小中一貫教育を実際に

経験された主任指導主事の先生からお話をいただいた。小中一貫教育についての理解が深まり、導入による効果が目に浮かんだのではないかと思う。

また、前回は事務局から示された推進計画の素案について確認いただき、ご意見を頂戴したが、今回、さらに協議を進め、完成形に近づけたいと考えている。

次第の3「協議等」、適正化の取組状況について、事務局から説明をお願いする。

(資料1-1～1-4を基に、事務局から説明)

【委員長】

只今の事務局からの説明に対し何か質問等は。

【各委員】

(なし)

【委員長】

次、学校規模適正化・適正配置推進計画の素案について、事務局から説明願う。

(資料2を基に、事務局から説明)

【委員長】

前回示された素案に、具体的な統合時期、校名等が記載され、おおよその形が見えるものとなった。

パート毎に区切って、1つずつ確認し、ご意見を頂きたい。

まずはローマ数字の1番、「推進計画策定に当たって」のところ。前回の委員会では、この部分については特にご意見等は出なかった。今回の内容は前回と変わっていないが、改めて意見、質問等あればお願いしたい。

【各委員】

(なし)

【委員長】

次、ローマ数字の2番「学校の適正規模・適正配置の具現化のための具体的計画」のところ、意見、質問等があれば。

【委員】

5ページの推進計画のスケジュールについて。甲子中、大平中の統合に向けた協議が、

予定だと令和9年度からスタートする感じに見えるが、あまりにも早い、とも思う。5年あるわけなので、ここに関わる方たちは皆卒業して、先生たちもいなくなってしまう。3年はほしいと思うが、あまり早く始めるのもどうなのかという気がした。

【事務局】

参考とさせていただく。

【委員】

釜石小と双葉小の統合で、目標年度が令和13年度になっていて、令和14年度には中学校が3つ統合することが目標になっているが、例えば、6年生で釜小、双葉小を統合して、次の年に更に釜石中が統合してとなると、子どもたちは不安が大きいのではないかと思った。慣れない環境がずっと続くような感じがするので、精神的な負担が大きいのと、親としてはジャージや制服はどうなるのだろうか、その辺も気になっている。短いパンで続くので不安になるのではないか。

【事務局】

児童生徒本人と保護者のアンケート等や意見を踏まえながら、ここまでまだ時間があるので、前期期間中の見直しのタイミングで改めて調整したいと思う。

【委員長】

「3 小中一貫教育導入の方向性」について。

【各委員】

(なし)

【委員長】

次、「学校統合を進める上で配慮する事項」の部分で何かあれば。

【事務局】

前回の会議で、委員からも市役所内の体制や、小学校だと放課後の子どもの居場所が担保されているのかどうかについて、またスクールバスの移動について、アンケート結果を見ても不安に思っている保護者がたくさんいるという話があった。

前回の会議のあと、5月2日に市役所全庁的な準備検討委員会を立ち上げた。子どもの放課後の子どもの居場所の部分はこども家庭課であったり、統廃合後の学校施設の利活用の部分はまちづくりの部分も関わったりするので、幅広く各担当課長も含めた市役所で全庁的に考えていく準備会議を立ち上げたことを委員の皆さんにご報告したい。

【委員長】

皆さん、よろしいか。

【各委員】

(なし)

【委員長】

それでは最後、「今後の取組」のところで何かあれば。

【各委員】

(なし)

【委員長】

計画の素案について一通り確認し、意見を頂いたが、今一度確認したいこと、意見、質問等あればお願いしたい。

【委員】

最終的に準備委員会で決めることだとは思いますが、制服やジャージについて経済的な負担を不安に思う方がいるみたいなので、これまでの統合の例を見ると、在籍する生徒についてはそのまま、要は1年生で買ったものを卒業まで着るので数年間は混在する感じで、新1年生から新しいものにすることが多い気がするが、その辺をどこかで示すと保護者の負担や不安が解消される気がする。

もう1点。以前、統合・閉校を経験したが、備品が学校にいっぱいあり、それらを処分するに当たってかなりお金が掛かったと思う。学校で負担したわけではないが、恐らく閉校するのに100万円以上かかったのではないかと思う。閉校した年度の予算で廃棄しきれずに残ったものは次年度に、ということだったので、今回大規模にやっていくにあたり、その部分の予算も見てもおかないと学校にゴミが残ったままになる心配があると思っている。

【事務局】

ご指摘の通り、統合後に様々な物品等が残ることはこちらでも把握していた。約20年前に学校統合を進めたが、現在も廃校となった校舎に廃棄しきれない備品や物品が多くある。昨年、旧橋野小中学校の一般ごみ系のものは教育委員会の職員で廃棄した。ただ、大型の備品などが多く残っている状況。先ほど費用について話があったが、財政課と話をし、今時点でお金をかけて廃棄したほうがいいのか、解体の時にまとめて処

分したほうがいいのか、どちらの方がコストが掛からないのか検討した上で廃棄作業を進めたいと考えている。

今後の統合に向けては、学校の教職員の方々にも手伝ってもらい、できるだけ学校がある時点で廃棄できるものは廃棄していこうと考えている。コストについてはなかなか難しい所ではあるが、後々の方に迷惑を掛けないように、今ある学校、今いる教育委員会の職員の手で片付けたい。

#### 【委員】

学校に残る備品とはいえ、歴史あるものが結構あると思う。現在の郷土資料館にはたくさんありすぎて大変な状況だが、あと何年かしたら学校の統廃合で出たものについて、まとめて資料として残すべきものは残すということもよく考えてから廃棄していただきたいと思う。

例えば、今の子どもたちにとって、何年か経って自分たちの学校の物が残っているのであれば、それは素晴らしいことだと思う。ぜひ、郷土資料館にも目を向けていただければありがたい。

#### 【事務局】

釜石中を統合した際、一中、二中、小佐野中の物も、品数を絞って釜石中に持って行って、メモリアルということで保管してある。今回の統合についても同様に扱わなければならないと思っている。

先ほどの橋野小中の話だが、昨年片付けをした際に、橋野の町内会、橋野町振興協議会の方にも立ち会っていただき、廃棄するもの、残すものを地域の方と協力して検討して対応した。展示の方法については、町内会の皆さんと橋野のふれあいセンターに保管することで検討しているので、今回の統廃合についても同じような形で思い出の品、物品については残したいと考えている。

#### 【委員長】

先ほど、ジャージの話があった。甲子地区は、中学校のPTAの保護者の取り計らいだと思うのが、使えるものは集めて皆さんに配るシステムを作ってもらっている。中学校の制服代とジャージ代で新1年生は8万円ぐらい負担があったようだ。1枚何千円なので相当な金額になったと思う。物を大切にすることと、先輩のものを着るということも、子どもたちにとってすごく良い環境だと思いを聞いていた。ぜひそういう取組も検討していただきたい。

#### 【事務局】

ジャージについて。釜石東中50周年の記録写真を見ると統合直後は色んなジャージ

が混在している。今リサイクルというか、大事に使おうという動きもあるので、きちんと整理していきたい。

備品関係についても、東日本大震災で色々な支援で全国からいただいたものは、専用の教室に展示室を設けている。実際に統廃合の話が出てくると復興支援等の備品も出てくると思うので、そこは学校と相談しながら丁寧に対応したい。

#### 【委員】

要望になるが、統合するということは閉校する学校がある。歴史ある学校を閉じるということは、それなりの重みがあることなので、今までの閉校行事についても、行政からお金を掛けていただいて、きちんと良い締め方をした経過があるので、学校統合の準備に伴って、閉校に対しての準備があることをここに付け加えていただきたい。

あと、若い保護者は分からないかと思うが、閉校の時は地域が主体になって学校を閉めるので、改めてその認識も皆さんに持っていただいて、学校と地域の深い関わりということを大事にしてほしいと思う。

もう一つ。今制服などの話が出たが、先日岩手日報で、滝沢市では各学校の制服ではなく、滝沢市としての一つの制服にする取組が紹介されていた。統合まで中学校は少し時間があるので、もっと先進的な事例を取り入れて、保護者の皆さんを中心に、広域的に色々と話を進めてもいいと思った。

#### 【高橋教育長】

3月の市議会定例会の中で、議員からも、制服についてはこのような経済状況の中で保護者に負担ができるだけ掛からないようにしてほしいという要望も出ている。

滝沢の例については新聞で読んだ。例えば、この計画でいうと釜石中が統合する際に、制服について皆さんの意見を聞きたいと思う。釜石東中の女子は人数が少なく、人数が少ないと単価が高く負担が多くなるかもしれないので、市内中学校の制服を統一して、その中で釜石中と釜石東中で、何か違いが分かるような形を取るというのも一つの方法としてあると思う。

#### 【委員】

放課後の子どもたちの居場所について考慮していただけるということで、大変安心した。居場所については、全国的にも重要視されているところなので、引き続きお願いしたい。

もう一つ心配されるのは、登下校の安全確保について。調べてみると双葉小学校から釜石市役所までは約3.7kmある。今スクールバスの規定がどうなっているかわからないが、前の基準でいくとこの距離はスクールバスの範囲に入らないと思う。歩いて通うとなるとおおよそ44分かかる。大人の足で44分となると低学年の足だともっとかか

る。親御さんの登下校の不安はかなり大きいのではないかと思うので、スクールバスの規定も含めて検討していただきたい。平田小と双葉小のスクールバスの転回場所や乗降場所も検討に入っているかもしれないが、その辺りも含めて登下校の安全確保をお願いしたい。

**【事務局】**

スクールバスの運行の基準については、小学生は2.6kmになる。例えば双葉小を基準にして東側と考えると、鈴子までで2.6km、大渡橋を渡ると皆スクールバスとなる。

乗降場所は、もちろん大事なことだと思っているので、地域や統合準備委員会の中で具体的に決めていきたい。十分に配慮していきたい。

**【委員長】**

その他、ありますか。

**【各委員】**

(なし)

**【委員長】**

それでは、推進計画素案の内容については概ね了承されたということによろしいか。

**【各委員】**

(異議なし)

**【委員長】**

それでは、本日皆様から頂いた意見をもとに、事務局で最終調整を進め、それをもって「素案」ではなく「計画案」とさせていただきたいと思う。

この計画案に関係して、事務局から補足説明等があればお願いしたい。

(スケジュール等について、事務局から説明)

**【委員長】**

今後、計画案について、各地区や学校等での説明会を行うほか、市議会への説明、パブリックコメントの実施と進めていくことになる。そして、それらの結果を踏まえて、第7回目の委員会では最終の計画案を示し、成案に向け協議することになると思う。

「次第4、その他」について事務局から何かありますか。

【事務局】  
(なし)

【委員長】  
委員の皆さんから、その他、何かありますか。

【各委員】  
(なし)

【委員長】  
なければ、これで本日予定していた協議は全て終了となる。  
教育長、一言お願いします。

【高橋教育長】

皆さんからいただいた貴重なご意見を教育委員会の中で検討して、反映すべきところは反映していきたい。教育委員会の中だけで計画すると、視野を広げるところが不足している部分があると思う。

また、閉校も大事にしてほしいという話や今までの歴史を大切にしてほしいということもその通りだと思うので、頂いた意見等、更に協議をさせていただき、案として、地域や保護者などに説明していきたい。

この計画の中で具体的な年度を書いたが、あくまでも目標年度になる。計画ではその年度としているが、必ずそこで、とは考えていない。そこを目指してやりたいということ。同意が得られればその通り進めていきたいと思うし、地域との協議の中で課題等が出てきた時は状況を見ながら対応していきたいと思っている。

一方では、少子化が思った以上に進んでいる現状を踏まえれば、先々に延ばすことはできないと我々は認識しているので、例えば、釜石小と双葉小は13年度となっているが、協議をしてもっと早い段階で環境が整えば早く進めたい。今後とも皆さんの協力をお願いしたい。

本日の会議では貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。これからがスタートなのだと思っている。地域や保護者等へ説明する場では色々な意見が出るのではないかと覚悟している。そういった時には皆さんにお知恵をお借りしたい。

7 閉会  
(教育部長あいさつ)